

第二二二回 幻住庵俳句コンクール

審査結果 令和六年十一月 幻住庵保勝会

選者 滋賀 恵美子(俳人協会)

特選 剃刀と言われし男松手入

大津市柳川一 丸岡 正男

【評】玄関の松がすつきりと剪定される、素晴らしい技巧なのでしよう。「剃刀と言われた男」で表現されています。

懐かしい男性の姿をイメージしました。一読で忘れられない秀句に感動しました。

入選 敬老日手つなぎ歌ふ青春歌

草津市若草三 井上 次雄

入選 彼岸花指輪外せぬ三回忌

大津市中庄一 原田 三九

入選 ロボットの体はブリキ昭和の日

大津市松本二 松田 翔

佳作 虫すだくどこかにいくさある地球

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 冬隣り無縁遺骨という孤独

大津市中庄一 原田 三九

佳作 撮り鉄の人に手を振る秋の旅

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 銀杏散りひらりひらりと大覺

大津市田辺町 山田 和義

佳作 大空を持ち上げそうな蟬しぐれ

大津市柳川一 園井 公子

選外佳作 秋の夜のルーペをあてて愛書かな

大津市石山寺三 小野 寛

選外佳作 まほらなる秋空に我吸い込まれ

横浜市南区 谷元 博樹

選外佳作 虚も実も水の地球は秋なりき

大津市柳川一 丸岡 正男

選外佳作 ハグされてはあははびっくり夏休み

大津市柳川一 園井 公子

撰者 小林 紀夫(大津市俳句連盟)

特選 火の鳥のはばたくドローン花火かな

鹿児島市紫原五 青野 優子

【評】夜空に多数のドローンを飛ばしAIの技術を駆使して火の鳥が描かれている。作者はそれを見て花火のようだと感じたのである。打ち上げ花火と異なり季節としての力は弱いが火の鳥との組み合わせで花火らしさを表している。

入選 一揆の碑焰を上げる曼珠沙華

草津市若草三 井上 次雄

入選 記念樹は大樹となりて法師蟬

横浜市南区 谷元 博樹

入選 朝刊に香り移して木犀花

大津市柳川一 園井 公子

佳作 高階のベランダに聞く体育祭

高槻市摂津市 河野 善江

佳作 刃の触れて途端に爆ぜる大西瓜

草津市若草三 井上 次雄

佳作 集落の戸数減りゆく蕎麦の花

草津市若草三 井上 次雄

佳作 金風や笙の音わたる猷茶式

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 コスモスやかくれる児らの帽子ゆれ

大津市柳川一 丸岡 佐代子

選外佳作 秋刀魚焼く煙の中に妻もゐて

宇治市小倉西山 伊豆 益一

選外佳作 重き河を花野におろし遊きし母

大津市里六 宮崎 正子

選外佳作 彼岸花指輪外せぬ三回忌

大津市中庄一 原田 三九

選者 山田 鳴子(日本伝統俳句協会)

特選 あかまんまさつちやんとしたおままごと

大津市大萱一 松田 和子

【評】赤まんまは、ままごとと組み合わせる類句が多くあります。この句は「さつちやんと」言う名前によつて具体的に、作者だけでなく誰でもあの頃の情景を思い出すのではないだろうか。平仮名ばかりの表現も効果的です。

入選 山霧の異界をつくりゆく速さ

高松市太田上町 信里 由美子

入選 刃の触れて途端に爆ぜる大西瓜

草津市若草三 井上 次雄

入選 村祭り都会住まいを吹聴す

大津市中庄一 原田 三九

佳作 時雨忌や幻住庵に遠く住む

鹿児島市西伊敷 上レイ子

佳作 火の鳥のはばたくドローン花火かな

鹿児島市紫原五 青野 優子

佳作 地震野分人はやさしく強くあり

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 稲の花丹波盆地に風渡る

高槻市高垣町 四方 よね子

佳作 一揆の碑焰を上げる曼珠沙華

草津市若草三 井上 次雄

選外佳作 蓮酒の莖つたひくる間合かな

高槻市高垣町 四方 よね子

選外佳作 記念樹は大樹となりて法師蟬

横浜市南区 谷元 博樹

撰者 志村 宣子(現代俳句協会)

特選 波引きて残る砂文字敗戦忌

大津市里六 宮崎 正子

【評】人間の倫理や社会の構造を「波」と例え「砂文字」を戦争の傷痕と例えられたのか。戦争の傷痕や記憶は簡単に消し去る事は出来ない。未だ地球の何処かで繰り返される戦争を嘆かれ反戦の俳句として頂いた。

入選 山霧の異界をつくりゆく速さ

高松市太田上町 信里 由美子

入選 秋雨や瑠璃に染まりし鳥かな

栗東市下鉤 金澤 恭典

入選 露げしや花のかたちの街路灯

大津市別保二 田中 文字

佳作 名月や庭師の梯子置きしまま

草津市若草三 井上 次雄
 彼岸花指輪外せぬ三回忌 大津市中庄一 原田 三九
 佳作 大黒様石になりをりきつね花 枚方市香里ヶ丘 中川 漲三
 佳作 御神火の黒き烟や銀杏散る 横浜市南区 谷元 博樹
 佳作 じいちゃんを越して米寿や吊し柿 大津市光が丘町 大槻 幸恵
 選外佳作 地震野分人はやさしく強くあり 高槻市高垣町 四方 よね子
 選外佳作 石切の注連の寂ふ秋風裡 岡崎市戸崎元町 柴田 文子
 選外佳作 秋風や亡母の句集がある書棚 大津市中庄一 原田 三九
 選外佳作 虫の秋枯山水に椅子ひとつ 横浜市南区 谷元 博樹
 選外佳作 ロボットの体はブリキ昭和の日 大津市松本 松田 翔
 選外佳作 逃げきった青のアンカー空高し 京都市伏見区 本西 一代

撰者 馬場民代(幻住庵保勝会)

特撰 石山の蟬神木に読経せり

和歌山市松江

松本 美那子

【評】抑も、日本は本地垂迹説が主で寺に神社を勧進。石
 山寺にも竜王社、権現社等と共に、堂々の千年杉神木
 もある。その木に鳴く蟬の声を神への読経と詠われた
 作者の閃きは白眉。はて令和人には神木に読経は如何
 映るや。

入選 おみなえし傘寿すぎなお未知の日々 栗東市中沢二 葛城 巖
 入選 一揆の碑焰を上げる曼珠沙華 草津市若草三 井上 次雄
 入選 大黒様石になりをりきつね花 枚方市香里ヶ丘 中川 漲三
 佳作 今生を抜けて空蟬カラカラと 高槻市摂津市 河野 善江
 佳作 秋空や心は風となつてをり 高松市太田上町 信里 由美子
 佳作 夕まぐれ余生迷ひて道をしへ 大津市里六 宮崎 正子
 佳作 一汗も一輪の彼岸花にほつとする 枚方市香里ヶ丘 中川 陽子
 佳作 虚も実も水の地球は秋なりき 大津市柳川一 丸岡 正男
 選外佳作 山門は自由解放秋の蝶 栗東市中沢二 葛城 巖
 選外佳作 阿波踊り鳴物遠く父母の墓 大津市稲津三 加集 正尊
 選外佳作 土の声木の声そして虫の声 大津市別保二 田中 文子

【今回投句数二六八句】